

「釧路湿原自然再生協議会」

第 19 回 旧川復元小委員会

資 料

平成28年10月19日

釧路湿原自然再生協議会運営事務局

釧路湿原自然再生協議会

－ 第 19 回 旧川復元小委員会 －

日時：平成 28 年 10 月 19 日（水） 13：30～16：00

場所：釧路地方合同庁舎 7 階 共用第 5 会議室

----- 議 事 次 第 -----

1. 開 会
2. 議 事
 - 1) ヌマオロ地区における調査検討結果について
 - ・旧川復元による効果の予測検討結果について
 - ・モニタリングによる効果の評価について
 - ・旧川復元による希少動植物への配慮について
 - 2) ヌマオロ地区旧川復元実施計画（案）について
3. 閉 会

----- 配 布 資 料 -----

- ・ 出席者名簿
- ・ 第 19 回 旧川復元小委員会資料
- ・ 第 18 回 旧川復元小委員会ニュースレター

釧路湿原自然再生協議会
旧川復元小委員会 委員名簿

計：48名

■個人(20名)

(敬称略、五十音順)

No	氏名	所属
1	石岡 透	
2	伊藤 毅	上智大学 国際教養学科 准教授
3	亀山 哲	国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター 生態系機能評価研究室 主任研究員
4	神田 房行	北方環境研究所所長(元北海道教育大学副学長)
5	櫻井 一隆	
6	清水 康行	北海道大学大学院 工学研究院 環境フィールド工学部門 水工・水文学研究室 教授
7	新庄 興	
8	新庄 久志	釧路国際ウェットランドセンター技術委員長(環境ファシリテーター)
9	杉澤 拓男	
10	杉山 伸一	環境カウンセラー(市民部門)
11	竹中 康進	
12	中村 太士	北海道大学大学院 農学研究院 教授
13	野本 和宏	釧路市立博物館
14	早川 博	北見工業大学 工学部社会環境工学科 教授
15	針生 勤	一般財団法人釧路市民文化振興財団 生涯学習推進アドバイザー
16	日野 貴	
17	平間 清	(有)平間ファーム
18	松本 文雄	
19	矢吹 哲夫	酪農学園大学 農食環境学群・環境共生学類 教授
20	渡辺 剛弘	上智大学 国際教養学科 准教授

■団体(20名)

(敬称略、五十音順)

No	団体/機関名	代表者名
1	釧路川カーネットワーク	会長 小川 清史
2	釧路国際ウェットランドセンター	理事長 蝦名 大也
3	釧路市漁業協同組合	代表理事組合長 戸田 晃
4	釧路自然保護協会	会長 神田 房行
5	釧路湿原国立公園 ボランティアレンジャーの会	代表幹事 山岸 彬
6	釧路湿原国立公園連絡協議会	会長 蝦名 大也
7	釧路シャケの会	会長 小杉 和寛
8	釧路水産用水汚濁防止対策協議会	会長 柳谷 法司
9	公益財団法人 日本生態系協会	会長 池谷 奉文
10	公益財団法人 北海道環境財団	理事長 小林 三樹
11	さっぽろ自然調査館	代表 渡辺 修
12	塘路ネイチャーセンター	センター長 鷲見 祐将
13	特定非営利活動法人 環境把握推進ネットワーク-PEG	代表 照井 滋晴
14	特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ	理事長 百瀬 邦和
15	特定非営利活動法人 鶴居タンチョウ元亀村	事務局長 佐藤 吉人
16	特定非営利活動法人 トラストサルン釧路	理事長 黒澤 信道
17	国立研究開発法人 土木研究所寒地土木研究所 寒地河川チーム	上席研究員 矢部 浩規
18	国立研究開発法人 土木研究所寒地土木研究所 水環境保全チーム	上席研究員 新目 竜一
19	北海道プロフェッショナル フィッシングガイド協会	会長 テディ 齋藤
20	標茶西地区農地・水保全隊	隊長 佐久間 三男

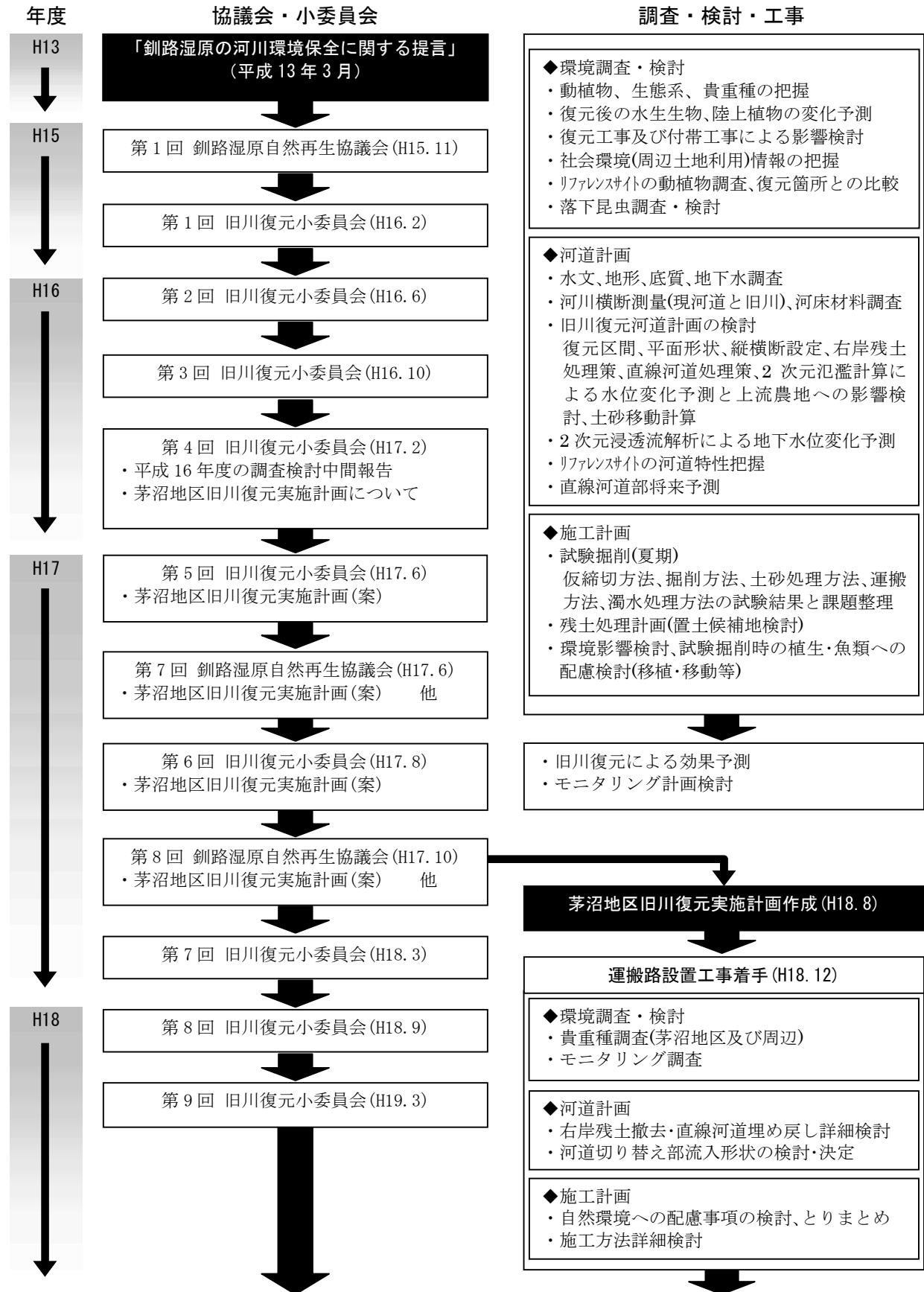
■オブザーバー(3団体) (敬称略)

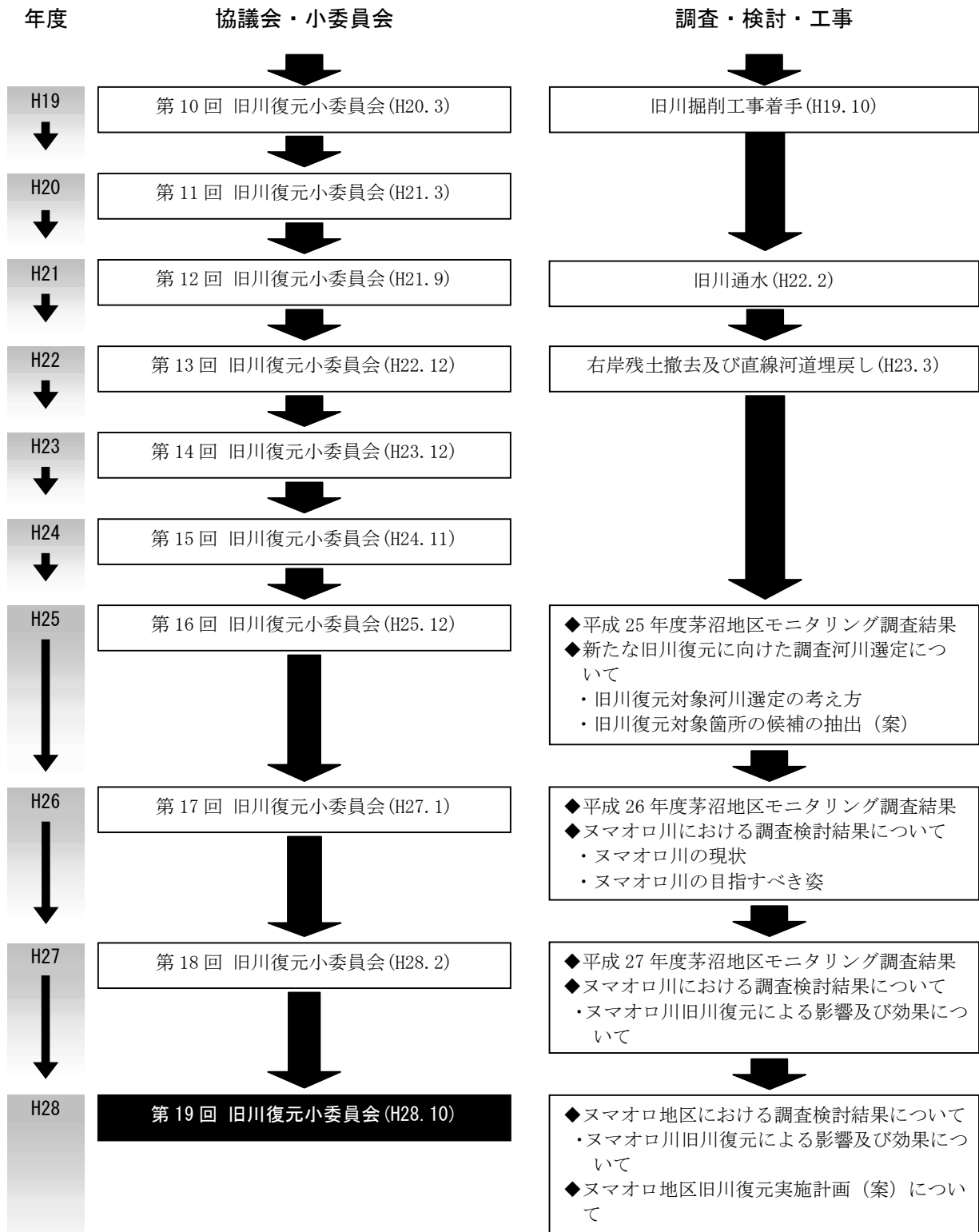
No	団体/機関名	代表者名
1	社団法人 十勝釧路管内 さけます増殖事業協会	会長 亀田 元教
2	標茶町農業協同組合	代表理事組合長 高取 剛
3	釧路丹頂農業協同組合	代表理事組合長 武藤 清隆

■関係行政機関(5機関) (敬称略)

No	団体/機関名	代表者名
1	国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部	部長 梅沢 信敏
2	環境省 北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所	所長 安田 直人
3	釧路市	市長 蝦名 大也
4	標茶町	町長 池田 裕二
5	鶴居村	村長 大石 正行

— 旧川復元計画に関するこれまでの経緯と今後の計画 —





◇前回の旧川復元小委員会での課題と今後の対応方針

第 18 回 旧川復元小委員会の課題（発言概要）と今後の対応方針

項目	発言概要	回答および今後の対応方針
ヌマオロ川における調査検討結果について	<ul style="list-style-type: none"> 鳥類調査で営巣地の確認は行われているのか。もし、確認されているのなら配慮が必要と考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 鳥類調査は6月、7月、8月に実施した。営巣地は確認されていない。ただし、タンチョウのつがいが周辺でみられることから、今年度は冬季に調査を実施する予定。
	<ul style="list-style-type: none"> 土砂軽減効果の予測で既往最大規模の流量では約4割の流出抑制があると記載があるが平均年最大流量程度の流量の場合、土砂軽減効果はどの程度であると予測しているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 平均年最大流量を含め5ケースの流量での計算結果を用いて軽減率を算出して土砂軽減効果を検討した。 本日の小委員会で説明する。
	<ul style="list-style-type: none"> 旧川の接続部分だが、交差部B（中央接続部）及び交差部C（下流接続部）の箇所掘削深さをもっと深くする検討をしてみてもどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 河床を深く掘り下げると、工事直後に周辺の地下水位が急激に低下して、現況のヨシ群落が他の植生に変化することが予想されること、下流接続部では、河床を深く掘り下げると自然蛇行区間にすりつけ掘削区間が生じて改変範囲が広がることから、これらより接続部の掘削高は現計画が良いと考えている。
	<ul style="list-style-type: none"> 事業で発生する残土処理はどのように考えているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 現河道の埋め戻しに使用することを考えているが、詳細については今後検討を行う。